

●中原忠夫

春先に懸念された冷害の危険は幸いにも回避されたが八月上旬全道一帯を襲った九号、十号台風とその後一ヵ月以上に及んだ長雨のため、畑作、水稲を問わず大きな被害をうけた。蔬菜類は被害も甚だしく、価格の変動がこれに伴い本年はきわめて多端な年であった。この一年を振り返ってみることに、翌春の新計画の一助にもなれば幸いと思う。

## ハウス・トンネル早熟栽培の増加

従来市場需要の限界、労力のかかること、府県産との競合等の点で問題があるとされたトンネル栽培も、技術の向上と、栽培面積の増加にともない、早出しものに対する需要の伸びから次第に安定した経営の一部となって来ている。ことに昨年の七月下旬の集中豪雨、本年の八月上旬の台風による被害が続ぎ、露地ものでは漸く果菜の最盛期に入ったところでこれらの被害をうけ満足な収穫をあげられなかった。反面、トンネル栽培によるとすでに収穫の大半を終えていたので被害も比較的軽微であったことから、果菜経営の必須条件として今後ますます伸びて行くものと考えられる。今のところトンネル栽培にとりあげられている種類はトマト、キウリが主で、スイカ、マクワウリ、ピーマンの果菜から葉根菜等にもだんだん伸びている。

トンネル栽培に当たっての品種の問題、育苗、管理技術の究明など多くの

問題点があるけれども、ここでは経営面からながめてみよう。

トンネル栽培に要する経費は反当たりビニール一〇〇坪巻一本本、六〇坪間隔にさす竹が約一、〇〇〇本、弧が六〇〇枚くらいあるのでビニールの薄手かポリの〇・〇五を使ったとしても四〜五万円かかることになる。それに労力も大変で朝晩の弧のかけはずしだけでも相当な労力となり、トマトで反当たり一、五〇〇時間を見なければならず、キウリではさらに多くかかる。労力が払底している昨今、トンネルが有利だからといって無条件に伸ばすことはできない。労力の許す範囲内に止め、面積をふやしたい場合は露地栽培にむける。トンネルの資材費の負担を軽減するために、トマトの前作にトキナシダイコン、刈タイナ、ハクサイ、ニンジンを入れ、トマトの後をキウリなどで利用するという二作、三作の利用法もある。ただ、この場合、それらのものが府県では露地で容易にできるものもあるから市場価格の有利な時期をねらって出荷するようつとめる必要がある。

さらに収支の面からながめるとトンネル



トマトのトンネル栽培

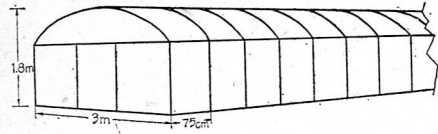
栽培の場合、収入を所要労力で割った時間当たり労賃にして、一〇〇円以上ほしいところであろう。美唄等での調査によるとトマトが一番高く二〇〇円を超し、キウリでは安外低く五〜六〇円ということである。そのためには有利な価格で販売しようとしたよりも早い出荷をねらいがちになるが、トンネル栽培の面積が伸びている現在、そうそう出荷時期の競争の余地はなさそうである、しかも府県もとの競合の点から少量では太刀打できないから、長期間の収穫にもって行った方が妥当のように考えられる。二〜三年の単価の推移から見ると、露地ものの出回期と、キウリでは八月下〜九月にかけての高値を示すことも見られる。このように長期間収穫のために計画的な病害虫防除、施肥対策を進めることが大切で、特にキウリの場合、抑制栽培が労力、病害の点で目下のところ思わしい成績をあげられないから尚更である。

さらに本年は野菜農家のハウスの増棟を特記しなければならぬ。現在のハウスの利用は冬季間の芽モノ、ミツバの軟白、刈タイナなどの栽培と、果菜の育苗に主眼をおいている。特にトマトのトンネル栽培用苗の育苗、スイカの接木栽培に欠かせない位に利用されている。ところで夏から秋にかけての利用についてはメロン、スイカの促成、キウリの抑制などが試験的に試みられているけれども、メロンを除き試験段階で経営的に見て必ずしもプラスになっていないのが現状である。しかしハウスの増棟が進むにつれ一戸で数棟もつ農家が見られるようになったから、年間を通じての利

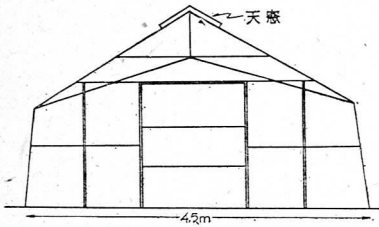
用という点は間もなく解決されることと思ふ。

目下のところ多く普及しているハウスは美唄式鉄骨ビニールハウスと、藻岩型ビニールハウスの二つで、その構造の概要を紹介すると、美唄式鉄骨ビニールハウスは鉄骨を主材とする組立式で、移動が簡単にでき、ハウス内作物の収穫を待たずに他作物に被覆できるのが強味で、固定式と異なり土壤消毒、替土とかの面倒な作業を省くことができる。

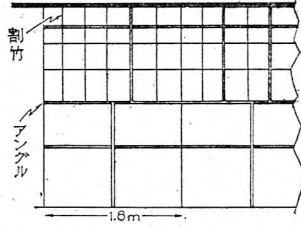
ハウスの大きさは幅三桁、長さ四五桁、一棟面積四〇・八坪でハウスの面積の利用度高く、天井換気によるため、やや手間を要するが、温度、湿度調節を完全に行なえる利点がある。しかし風をうける面積多く、二〇桁以上の風、耐雪性について心配



美唄式鉄骨式ビニールハウス



正面図 S=50:1



側面図 S=50:1

藻岩式ビニールハウス

な面もあるが、鉄骨の間隔を伸縮でき、ある程度の強度の維持は可能ということである。建設費は坪当たり二、二〇〇円ぐらいで構造の簡単な割に鉄材が主なので高くつき、ビニールが鉄パイプに直接触れるため、ビニールの耐用年数(二年ぐらい)の短いという欠点もある。

藻岩型ビニールハウスは固定式で、アンクルに木材を組み、ビニールの木部張止め形式なのでビニールの耐用年数も長く、換気も天窓開閉式で合理的な管理が行なえて、しかも風、積雪にも強い。幅四・五桁、長さ一八桁で二五坪が標準となっている。建設費は坪当たり四、五〇〇円から七、〇〇〇円と基礎の様式によって異なるが、割高になっているけれども温室と同様に利用出来、耐用年数の永いことが強味である。ただし移動出来ないのは不便なので地グイ打込みによる移動可能な形に改め建設費も一棟当たり一〇万円内外の改良形が普及して来ている。

九・十号台風の被害

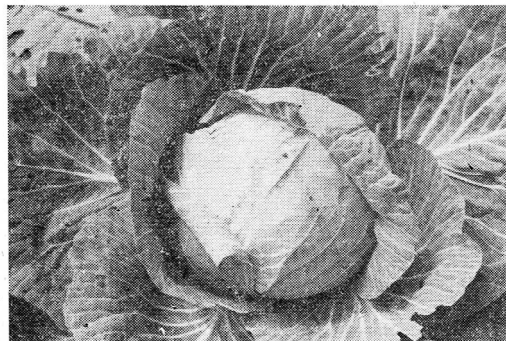
八月上旬は果菜類の最盛期で、しかも七月下旬からの雨天続きに病害予防に心魂を傾けていた矢先、九・十号と連続して台風の被害をうけた。ここ数年北海道は台風の通り道となり、その多くは九月に入ってからでその被害も比較的軽微なものであったが、今年のような時期に台風の訪れたことはめずらしい。台風は小規模のものだったが大雨を降らし、作物がう

ち続く長雨に軟弱に育っていたためわずかの風を伴ったのみで多くの被害を受けた。河川の氾濫によって冠水した地帯は全滅し、冠水しなくとも先ずキウリ、トマト等は回復の見込みがなくなる程すり傷をうけ破れ、一斉に病斑が拡まった。昨年の集中豪雨は局部的に止まったが全道各地に及び、しかも水害による鉄道の寸断、橋、道路の流矢で輸送がマヒしたこともあって、地区により青果の不足から恐ろしい程の高値を呼び、全道的に波及して行った。被害を受けた農家は高値を切歯扼腕してながめたことであろうし、被害の最少限度に止まった農家では、わずかのトマト、ナス、キウリの出荷により方に近い金を握ったこともあって、運不運という言葉で簡単に片付けられない厳しい現実をみせつけられたわけである。

その後、雨は九月に入っても止まず、九月中の晴天が二三日という異常天候が続ぎ、一般畑作は勿論、野菜類にても露地ものの果菜など満足な収穫も見ないうちに終わってしまった。その他カンランの異常結球、秋野菜の生育不良をもたらした。

晩生カンランは一五〇日内外の生育日数によって収穫期に達するのが普通なのに、一〇日から半月以上早まり、裂球が甚だしく、比較的裂球のおそいといわれている四季穫、ともえ種にしても早期裂球が問題になり各種苗商ともその苦情処理になやまされた。早期結球の原因として考えられることは養水分の過剰供給現象と、気温が低く、結球を促進する適温に近かったためであろう。これに反し秋野菜のハクサイ、ダイコンは長雨による土壤湿度過剰のための酸素

供給の不足と、低温のために生育速度がにぶり、七月上・中旬播種ものを除き、いちじるしく結球がおくれた。軟腐病の発生が年々増え、本病の回避のため多肥によるおそ播が常識化されていたため、早生種を除



裂球したカンラン

いて満足な結球に到らないでしまい、特に例年好成绩を示していた松島交配七号、王将のような大型晩生種にて被害大きく、中生種の仲秋白菜の評判が良かった。

市場の市況

春先から府県移入量も召めて出荷量が増えているにもかかわらず前年に比し高値に経過し、早出しの値値があらためて認識された。七月に入り好天続きと生産量の急増で下押しとなり、カンランは昨年と全く逆に一玉五〜一〇円というようなことが続いた。八月以降は前述の台風のため異常高値を示したことは衆知の通りである。しかし

カンランだけは早期結球と品質不足の点で依然安値が続いていたが十月末からは品薄傾向でもちなおして来たようである。ハクサイ、ダイコンは回わり遅延から高値となり、ダイコン一本七円〜一五円の高値も見られたが、十一月に入り移入量の増加もあって下押となり、出荷をのがした農家の貯蔵ものも多いようである。

道外向青果についてはタマネギが府県の豊作によりなかなか値が出てない他、ニンジンでは八月中輸送に限定をうけたため箱当り六〜七〇〇円という高値でふたあけしたけれども、九月に入り滞貨などもあって急落したが、翌春の見通しは明かるいものと見られる。食用馬鈴薯の一俵八〇〇円という高値は奇異に思われるけれども、台風による減取のためであらう。

なお価格のことで特記すべきことは、中央市場が出来たにも拘らず、安くならない青果物の値段に關心を寄せた札幌市民の要望にこたえて、標準小売価格が毎日発表されるようになったことである。青果物の取扱いはなかなか面倒なものと考えられるが、消費者同様、生産者もその流通過程改善のために常に目をむけて行くべきであらう。

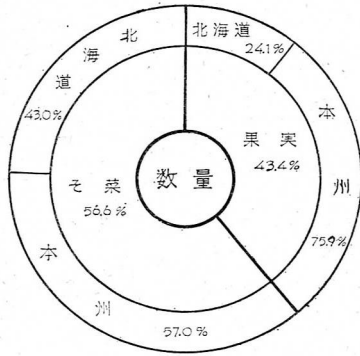
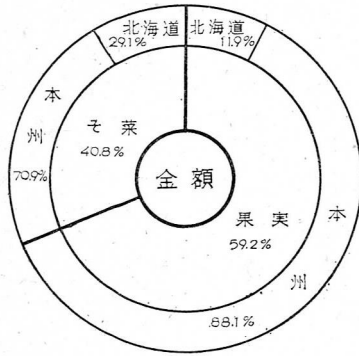
### 病虫害

病虫害についてはタネバエ、タマネギバエを除いて発生少なく、台風の影響から見ると軽微にすむ問題なかった。タネバエ、タマネギバエは今迄「ブタコロル」、アルドリンで大体防除出来たけれども本年はほとんど効果が認められず大きな被害をうけた。このことはネギバエなどの発生が多かったということより薬に対する抵抗性の問題であらう。そしてタマネギ、長ネギでは

集団産地より離れた圃場が全滅的な被害をうけ、集団的な防除の必要性を感ぜられた。今後はより強力なEPN、VIC等の有効的散布を考えなければならぬ。

### おわりに

青果物の道内消費の実態を札幌中央市場の昭和三十六年の実績から見ると、野菜の数量で五七%、金額にして八八%を道外移入ものが占めている。サツマイモなどの暖地特産野菜を含めた数字だが、道内に年間移入される青果物は総金額にして五〇億を超えるであらうといわれる点から考えても



昭和36年札幌中央市場青果物総取扱高

ももっとも強力な青果物の増産態勢を進めるべきである。しかも既往の産地が宅地化され新産地に移りつつある現在、新産地の育成のために積極的な施策が望まれる。

台風にいためつけられ苦しい年であったが、各地に出荷態勢の整備、品種の統一、技術研究に対する意欲が見られることは心強い限りである。(以上)

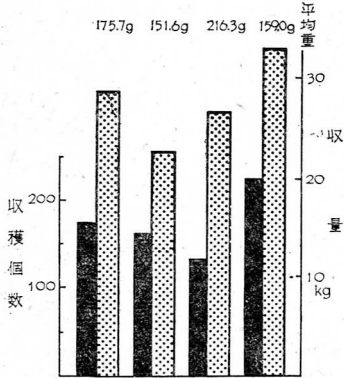
## 新品種紹介

### 雪印交配

### いしかりトマト

育成の目的 福寿二号に始まったトマトの交配種育成は現在迄数多くの品種がつくられて来たが、そのいずれもが府県の集約的な栽培条件下に生れたものである。北海道では育苗から定植など栽培条件の一つ一つをとりあげて見ても不良環境下であり、それらの条件に耐え、しかも、ある程度粗放な管理にても成績の良い品種に対する要望が強い。弊社ではこの点から品種改良につとめ、さき日にの発表を公表し、その姉妹種として本種を発表したものである。

### トマト品種試験(三十七年上野幌、二〇株当たり)



雪印交配 日の出  
雪印交配 いしかり  
一代交配 福寿二号  
一代交配 ひかり

圃場での生育はきわめて旺盛で、いかなる土壌にても良く、肥沃地では施肥を控えるにした方がよい。トンネル栽培にも適するが、むしろ露地栽培にて成績があり、作り易さの点で現在の栽培品種中最良のものであろう。

### いしかりの特性



熟期ひかりと同程度で特に早いとは言えないが、樹勢がきわめて強健で、耐病性に富み、玉のび良く平均果重二〇〇gを超え、玉揃い良く果皮のきわめて少ない品種である。福寿二号、日の出は着果数が多いため、摘花とか、トーン処理に面倒であるが、本種は着果数をおさえ、しかも鬼花が少ないよう改良した。着色も果頂から始まり、鮮やかな桃色で、肉質もすぐれ食味も良好である。栽培上の特性 苗の生育良く、育苗は容易だが、なるべく短期間育苗することによって能力を発揮する。